

全 員 協 議 会

日 時 令和 6 年 1 2 月 1 8 日（水）

本会議終了後

場 所 議場

付議事項

- 1 議運決定事項について
- 2 視察報告について

第 4 0 回議運決定事項

令和 6 年 1 2 月 1 8 日（水）

決定事項

3 月定例会の日程案について

- (1) 執行部から会期の短縮を希望する旨の申入れがあり、これを受け入れることとした。
- (2) 変更後の日程案は、**資料 1** のとおりである。

令和 7 年第 1 回（3 月）定例会日程案

会期		令和 7 年 2 月 2 0 日から 3 月 2 4 日までの 3 3 日間		
月	日	曜日	日程	備考
2	1 0	月		
	1 1	火	建国記念の日	
	1 2	水		
	1 3	木	告示	
	1 4	金	一般質問通告締切	聞き取り
	1 5	土		
	1 6	日		
	1 7	月	議運	聞き取り
	1 8	火		
	1 9	水		
	2 0	木	本会議初日	
	2 1	金	2 委員会及び分科会（現年度）	
	2 2	土		
	2 3	日	天皇誕生日	
	2 4	月	振替休日（天皇誕生日）	
	2 5	火	委員会及び分科会（現年度）	
	2 6	水	委員会予備日	
	2 7	木	一般質問	
	2 8	金	一般質問	
3	1	土		市内高校卒業式
	2	日		
	3	月	一般質問	
	4	火	一般質問	
	5	水	一般質問	
	6	木	一般会計全体会（現年度）	
	7	金	本会議【午後から】	市内中学校卒業式
	8	土		
	9	日		
	1 0	月	2 委員会及び分科会（新年度）	
	1 1	火	2 委員会及び分科会（新年度）	
	1 2	水	2 委員会及び分科会（新年度）	
	1 3	木	委員会予備日	
	1 4	金	休会	
	1 5	土		
	1 6	日		
	1 7	月	休会	
	1 8	火	休会	
	1 9	水	休会	市内小学校卒業式
	2 0	木	春分の日	
	2 1	金	一般会計全体会（新年度）	
	2 2	土		
	2 3	日		
	2 4	月	本会議	
	2 5	火		
	2 6	水		
	2 7	木		
	2 8	金		
	2 9	土		
	3 0	日		
	3 1	月		

会派至誠一心会 視察報告

令和 6 年12月18日

山陽小野田市議会
議長 高松 秀樹 様

至誠一心会

1 視察の対象・目的

学校教育(特に義務教育)の最高目的は、生徒たちに「生きる力」を身に付けさせることである。平成30年前後から取り組まれている現行の学習指導要領では、生きる力を身に付けさせるため、新たに「主体的・対話的で深い学び」がうたわれ、それを実現するために、特にコロナ禍以降では、全国の小中学校で学習者用端末の生徒への一人一台の配布がなされて、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を目指した取組がなされている。

この教育現場の取組を「アクティブラーニング」というが、今回の視察目的は、「アクティブラーニング」先進地の滋賀県彦根市に出向き、彦根市教育委員会から彦根市での取組みのレクチャーを受け、実際に市内小学校の現場を見せていただくことにあった。

2 視察に先立つ研修

アクティブラーニングは当然山陽小野田市でも取り入れられているので、視察に先立って本市教育委員会からレクチャーを受けた。

本市の特徴としては、一人一台タブレットの配布や総合的探究授業で、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」の上に「学びに向かう力や人間性」を構築する「知徳体の充実」を目指している、とのことだった。

3 視察の日時・場所

令和 6 年 11 月 11 日(火)14時。彦根市議会内にて、彦根市教育委員会学校 ICT 推進課から、20 分間説明を受ける。その後、彦根市立城南小学校アクティブラーニング教室において、小学 4 年生の授業を 1 時間参観。その後、教室で 20 分間の質疑をさせていただいた。

また、視察に先立って提出した五つの質問(ここでは省略する)には、丁寧に文書で回答を頂いた。

4 彦根市の小学校でのアクティブラーニングの取組み

(1)多目的教室(アクティブラーニング教室)の整備

自由にレイアウトを組み替えられる机や、机にも椅子にもなるスツール、壁面ホワイトボード電子黒板機能付きプロジェクター、グループ学習用ホワイトボード、高性能パソコン、3D プリンター、教育用ドローン、オンライン配信設備等が整備されていた。

(2)授業の様子

小学4年生30人の生徒が3グループに分かれ、彦根市の三つの姉妹都市に関して、①タブレットや動画(NHK for School)を使って得た知識をホワイトボードに細かく書き込み、②その知識を他人に伝える練習をし、③最後に発表の場を設けていた。

クラス全員が授業に積極的に参加し、誰一人取り残されることなく生き生きと、主体的、能動的で対話的、協働的な学びが実践されていた。五角形の動く机、ゴロゴロ動く椅子、寝転ぶこともできるじゅうたんで、いろいろな同級生と声をかけ合い、教え合い、助け合い、できる子が特に仕切るわけでもなく、教室の隅でいじける子も一人もなく、みんなが活発に発言していた。最後の発表の場も、一人がプレゼンをするのではなく、みんなでマイクを回し、自分が学んだことを発言していた。「クラス全員の生き生きした前向きの姿勢」が非常に印象的であった。また、電子黒板やパソコンといった機材の取扱いにつき、最低限の使用方法を学ぶ意味合いもあるのだろう。

教師の側は、いくつかの機器を上手く扱いながら、生徒たちの学びのコーディネート役をうまく果たしていた。学校には毎日1人ICT支援員がつき、また時には、数人の支援員との共同研修を積んだり他の学校の協力を仰いだりといったサポートがあると教えていただいた。

5 結論

彦根市の特徴は、「アクティブラーニング教室」の整備と、それを上手く活用して生徒たちの主体的で協働的な学ぶ姿勢を引き出し、教育の最高目的である「生きる力」を育んでいるところにある。

山陽小野田市でも類似の取組をしているが、彦根市の場合は、アクティブラーニング教室というハード面の整備だけではなく、その教室の特性を生かして生徒間の「協働」意識をより育くもうとしている所にあるように感じられた。「みんなで協力し合って」というところが徹底されていた。

今後本市でも、タブレットを利用したアクティブラーニングの実践につき様々な工夫がなされるだろうが、生徒も教師も情報機器やプレゼン方法のテクニックに偏重するのではなく、教育の最高目的である「生きる力」を形成するためという目的を常に忘れずに取り組む必要があると感じた。